

南アフリカ 米国の関税を受け柑橘類等の輸出先を多様化

[FreshPlaza](#) 2025年10月10日

ヨハネスブルグ証券取引所(JSE)上場のケーエーエル(KAL)グループは、米国の新たな関税はニッチな農業セクターに課題をもたらす恐れがあるものの、南アフリカの農業全体の回復に大きな影響を及ぼすものではなく、むしろ他の市場への多角化を加速させる可能性があるとしている。

KALグループのショーン・ウォルシュCEOは、世界の貿易の流れが南アフリカの生産者に利益をもたらす可能性のある形で変化しているとして、「この混乱は新たなチャンスへの移行を加速させている。貿易の流れは再調整され始めており、長年計画されてきたアジア、アフリカ、ヨーロッパへの多角化が、物流の改善と貿易パートナーシップの強化に支えられて勢いを増している」と述べた。

ウォルシュ氏は、米国が貿易全体として重要な相手国である一方、農業分野では支配的ではないと指摘し、「これは、最近の南アフリカ農業ビジネス会議所(Agbiz)の調査レポートに掲載された貿易データによって裏付けられている。2025年の第1四半期には、南部アフリカ開発共同体(SADC)諸国の市場が南アフリカの農産物輸出の約39%を占め、次いで欧州連合が約25%を占めた。その他の主要な輸出先は、英国、中国、及びアフリカの地域市場(SACU:南部アフリカ関税同盟)等である。米国は近年、農産物輸出総額のわずか4〜6.5%を占めているに過ぎない」と語った。

南アフリカの柑橘類産業は以前から関税議論の中心となっているが、2025年は記録的なシーズンに向けて順調に進んでいる。ウォルシュ氏は、「データによると、2024年の南アフリカから米国への柑橘類輸出力は658万箱で全体の約4%であった。米国の南半球産柑橘類市場において、南アフリカはチリ、ペルー、アルゼンチンに次いで約13.9%のシェアを占めた」と述べ、ほとんどが30%の関税が発効する前に出荷を完了したと付け加えた。2024年の総出荷量が1億6,460万箱(15kg/箱)であったのに対し、2025年は1億8千万箱と予測されている。

ウォルシュ氏は、関税の実際の影響は2026年から実感される可能性が高いと言い、「輸入業者は当然、供給国の関税を比較することになる。南米やEUの一部の競合国が米国市場でより魅力的に見えるかも知れないが、(競合国が米国市場にシフトすれば)それは現在それらの国が供給している他の市場に空白を生じさせることで、南アフリカにチャンスをもたらすことになる」と述べた。

同氏は、アジア、アフリカ、ヨーロッパへの多角化が進行中であるとして、「アジアではチャンスが急速に拡大している。ベトナムへの柑橘類輸出、中国、日本、インドへのアボカド輸出、アジアの諸市場へのプレミアムワイン輸出は、物流の改善と相まって、既に南アフリカの貿易構造を再構築しつつある」と語った。

南アフリカ農業ビジネス会議所の首席エコノミストであるワンディール・シロボ氏は、2025年第2四半期の農産物輸出の22%をEU向けが占めたとして、「南アフリカがEUに輸出している主な農産物は、柑橘類、リンゴ、ナシ、ナツメヤシの実、パイナップル、アボカド、グアバ、マンゴー、ワイン、ブドウ、それにナッツ類等である」と述べた。

南北アメリカは7%を占め、主な輸出品目は、柑橘類、果汁、ワイン、ナッツ類、アンズ、リンゴ、ナシ、ブドウであった。

シロボ氏は、米国のシェアは約4%であるが、米国市場に直接関係する特定の業界にとっては依然として重要であると付け加えた。

出典: IOL

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)